

表1 順応的管理の取組について

	順応的管理の基本（案）	護岸改修事業に関する順応的管理計画（案）	評価委員会からの意見の出し方
1	手法が「作業」と作業間を結びつける「フロー」とから構成されており、「フロー図」として示されていること	フロー図として示されている	
2	「管理目標の設定」、それに見合う「管理手法の設定・改善」、「モニタリング」、モニタリング結果のフィードバックによる「管理手法の再検討・レビュー」が含まれており、それらが相互に結びついていること	フロー中に含まれており、それらが相互に結びついている	
3	「管理目標の設定」では、事業の目的、規模、位置、特性、事業期間、使用素材、周辺からの影響要因などを踏まえて、わかりやすく目標が設定されていること	<u>生態系への配慮、防護、利用に関する目標は設定されているが、個別目標としては示されていない</u>	
4	「管理手法の設定・改善」では、「目標設定」に見合う内容の評価のしかたと、評価に従った管理のしかたが定められていること。 周辺の類似環境を参照にしたり、時間的な発展をおおまかに想定することは、よい工夫	<u>具体的な評価のしかたと、管理のしかたは定められていない</u> （誰が判断し、どんな手直しを）	
5	「モニタリング」は、目標設定に際して考慮した特性を踏まえ、想定プロセスを参照に、適当な密度、頻度、期間、手法を選定していること 適切な費用となっていること。 大きな阻害要因や周辺からの作用要因が予想されるときには、これらにも配慮されたモニタリングとなっていること	<u>モニタリングは、影響予測結果を踏まえ、目的・時期・頻度・調査範囲等が設定されている</u>	
6	想定とのズレや目標の不達成の可能性を検知できたら、その原因を検討し、管理手法を再検討するプロセスが組み込まれていること。 再検討のプロセスが公開性をもっていること	管理手法を再検討するプロセスが組み込まれており、公開性を持っている。	

7	<p>管理手法の改善によっても、なお、目標の達成が困難と見通せた場合には、設定された目標の妥当性についても再検討ができること。</p>	<p><u>「目標設定」の妥当性の再検討については、示されていない</u></p>	
8	<p>提示された順応的管理の手法は、現実的で着実に実施されるような手法になっていること。 公開性と柔軟性をもった手法となっていること</p>	<p><u>順応的管理の具体的な手法は示されていないが、公開性と柔軟性は持っている</u></p>	

表2 個別のモニタリング手法に対する各委員からの意見等

平成17・18年度施工予定区間に関するモニタリング計画					意見提出委員	意見概要	備考
項目	目的	方法	時期(間隔)	数量等			
波浪(流況)	護岸前面域の波浪(流況)状況変化の把握 ・波高・波向の計測 ・波浪流の計測(海底面上約1m)	波高・流速計の設置(30日間連続観測)	施工前:3月 施工後 秋季:9月 春季:3月	・護岸前面の1箇所(30日連続観測)	清野委員	・三番瀬全体と、護岸付近の波・流れの確認	
地形	・護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 ・洗掘等による周辺地形の変化の把握等	地形測量	施工前:3月 施工後 ・秋季:10月 ・春季:4月	・既設護岸法線から離岸距離100mまで ・施工範囲100mに対して5測線(20m間隔)	清野委員	・代表測線の月1回の測量 ・測量ボランティアによる公開調査	
底質	粒径の変化の把握	採泥・粒度試験	施工前:4月	深浅測量の中央の1測線で10m間隔で採泥(11検体)	清野委員	・土砂移動の視点を導入	
生物	潮間帯生物の定着状況調査は公開とし、ライントラセクト法による観察は市民との協働で行うものとする。	ライントラセクト法による観察	施工前:4月 施工後1ヶ月:10月 施工後3ヶ月:1月 施工後7ヶ月:4月 施工後1年:9月	・施工区の中央部に1測線、対照区として測線L-2の1測線(100m)及び塩浜1丁目の応急補修工事区間の計3測線			
		採取分析		・採取分析3検体×4時期 ・施工区の中央部の高潮帯、中潮帯、低潮帯で各1検体			
景観	・周辺域との景観の調和 ・石積へのごみの堆積状況の把握	委員、一般市民参加による見学会形式	施工後数回	実施時期については、完成後の経過時間と台風後などの状況を踏まえて決定する。	清野委員	・海からの景観調査と、将来イメージづくり ・架橋の景観や空中環境への影響検討(自然環境調査関係意見)	
					吉田委員	・類似構造である習志野の護岸と比較していく工夫	
全 体 に 関 し て					望月委員	・施工後、1年で調査を終了するのは望ましくない	

新たに実施した方がよい調査等について	清野委員	・護岸付近のプランクトンの集魚灯調査。年4回。(自然環境調査関係意見)
	宮脇委員	・土地利用の将来変更を含め、市と協力した調査
	横山委員	・今後、施工が予定される直立護岸沿いの調査を並行して実施